

区分・種別	県指定有形文化財（工芸品）		
名 称	くじゃくもんけい 孔雀文磬 1面		
所 在 地	西予市宇和町（愛媛県歴史文化博物館）		
所 有 者	宝寿寺	管 理 団 体	
指定年月日	昭和40年4月2日		
解 説	磬^{けい}は中国伝来の吊り下げて、たたいて音を出す打楽器であるが、我が国では奈良時代以降、仏具として勤行の際礼盤^{らいばん}右側の架^かにかけ導師が打ち鳴らすものである。この磬は、肩幅17.2cm、裾張^{すそ}り18.8cm、中央高7.8cm、縁厚0.8cm、鑄銅製で通常形式の磬である。 縁は菱形で内側に小縁をめぐらしている。上縁の菱形は低く平らで6弧に、下縁の弧は浅く3弧に形取られている。肩幅より裾幅が広めで、やや裾が外に張り、胎は薄い。表裏とも撞座^{しゅざ}は胡桃形八葉蓮華^{くるみ}が大きく広がり、これに相対して翼を張った孔雀を大きく鑄出しているが、片面は片脚を上げて尾羽を垂らした姿を、片面は尾羽を立てた姿を表している。上縁の花先の左右の弧に紐を通す蓮実形の耳をつけている。鎌倉時代初期の製作とみられている。		

